



ビジネスホテル「橋本」
ビジネスホテル「橋本」
女将 橋本千春さん

す。他には、ロアツン熊本のサポーターランとかですね。安く泊まって観戦に行ってもらったりしています。食事はつけてないんですよ。地元のお店を回ってもらうために。素泊まりの安い料金だから、結構利用してもらっています。あとは、宿泊は県外のお客様が多いので、もう少し地域と密着したいと思う、2年前から、地元の企業向けに、ランチを始めました。近くにあまり飲食店がないので、企業のお客様が多いです。地元の野菜を使っていますし、単身赴任の人もいらっしゃいますので、昼はここで栄養補給してもらって感じてですね。

橋本 今まで大津町で旅館業をやっている、町の人も来られるようなスペースを作りたいと思って、7階に「セラピア（ギリシャ語で癒しの意味）」という場を設けたんですよ。貸切でビアガーデンや社員と社長の食事会などに利用してもらっています。町の人とのコミュニケーションがなかなかとれなかったんです。当初は苦労したんですけど、今は作ってよかった

エピソード

進化する宿場町のDNA 新 宿場町おおづ

大津町は、宿場町として栄えてきました。今は、その風景はあまり残っていないけれど、それは間違いのない事実です。今回の特集では、多くの企業や人に取材をさせてもらいました。話を聞くことで、大津町のことを見つめなおすことができました。ビジネスホテルのインタビューでは、大津町の状況を知ることができました。「多くの企業の進出、増設」「空港アクセスの良さ」「世界的観光地である阿蘇への近さ」…知っていることなのですが、改めて大津町の素晴らしさを感じました。いろんな要因で今の大津町は栄え続けているのです。そして、それはなぜなのか？との疑問から、昔から旅館、民宿が続いている「大津街道おかみ会」の皆さんに対談をさせていただきました。宿泊業を通じたまちづくりへの思い、長年大津町で活動しているからこそ見える、大津町の「人」について聞かせてもらいました。

いまの大津町があるのは、大津町の人のもつ「おもてなしの心」のおかげなのかもしれない。

役場の職員が、ある企業の人からこんなことを聞かれました。
—「大津町になぜこんなに企業が進出しているか分かるかい？」

その職員は、交通の利便性が良いことを理由に上げました。しかし、その人は違うと言うのです。理由を聞くとその人は、

—「大津町の人、おもてなしの心があるからだよ。だから、企業は進出している。やはり大事なのは『人』だよ」と言いました。

江戸時代から、大津町の人を持っていた「おもてなしの心」。宿場町としての趣もほとんど無くなってしまった今でも、受け継がれ、培われてきました。

それは、これからも違った形で大津町を発展させていくのでしょ。



取材協力：ハイカラ亭

田代 今年は特に暑かったから、食が進むように冷麺やつけ麺を出したり、漬け汁を工夫したり、食が進むような料理を出しましたね。

吉見 お客様が帰る日に出した食事を、その次来てくれたときの最初の日には出さないようにするとかね。

村越 やっぱ女将のこだわりですね。第一はお客様に喜んでほしいということだと思います。お客様を迎え入れるときの姿勢、それから送り出すときの姿勢など、お客様のことを常に考えて行動しているということ、お客様が私たちを信用してくれているかどうかだと思うんですよ。そこに細かい配慮をしていくかどうか、それぞれの特色を持って取り組んでいけるかが生き残り作戦にもつながっていくんじゃないかと思います。

—皆さんの話しを聞くと、泊まりに来た人はおもてなしを受けて「自分だけは特別なんだ」と感じてくれて、そこからリピーターが生まれてくる気がします。

村越 長期のお客様は、ほとんどが仕事で来た人たちですよ。仕事が終わって帰る。しばらくして「空いてますか？」という電話がかかってくるんですよ。「久しぶりでですね」と言う、「今度は、家族で行きたいんだけど」と言われたんです。自分が仕事で泊まっていた宿と私を家族に紹介したいって言うんです。こんなにうれしいことはないですね。これは、私が「おもてなし」のことを一生懸命



旅館「新誠館」
女将
吉見富美江さん

思っていることへのお客様からのお返しかなと思っています。
—それは、最高の賛辞ですよ。

—町の人が持っている「おもてなし」の心とはどういったものがあると思いますか？

吉見 町外から来た人が人に道を尋ねたりするじゃない。そのときに大津町の人間として、そっけないそぶりじゃなくて優しく接してあげるところかな。私も旅行が好きだから、いろんなところ行けど、丁寧に教えてもらえると気持ちがいいですね。やっぱ真心のこもった応対をするってこういうことだと思います。

橋本 私は、町の人の「人間力」かなって思うんですけど、人を引き付ける力を持った人たちがいる町だなんて。いろんな才能に長けている人もいますし。

—自分のところでできないことがあれば教えてください。

田代 グラウンドがあるので、グラウンドを利用した宿泊プランを用意してま

—とっています。

村越 一人ひとりのお客様を大事にするということですね。特に、食のこだわりがメインだと思います。お客様の反応を感じて心配り気配りをしています。「女将の見える宿」でありたい、やはり女将のおもてなしの心が見えるということ、安心して泊まってもらいたいと思っています。

村越 若い人たち（橋本さん、田代さん）は頑張っているなあと思いますね。

吉見 私みたいに、年をとったら頑張りたくても頑張れないから、阿蘇や熊本市

内に泊まる人たちが若い人たちの魅力で大津町に引き付けて欲しいですね。期待しています。

—最後に、町に対してのご意見、ご希望などがあれば聞かせてください。

吉見 私は、小さなお店の集まりでもいいので、旧国道57号あたりをもう少し活気のあるようにしてもらいたい。

みんなが一丸となって頑張らないと何年経ってもこのままだと思います。やっぱり一生懸命さがないと町は発展しないから。

—現在、まちづくりについて「まちづく

り協議会」で話し合っています。座談会などをこれから行っていきますので、ぜひ参加してほしいですね。

田代 商店街や肥後大津駅周辺を開発してもらおうと、マイナスにはならないと思うんですけど、絶対プラスになっていくことだと思いますので。

橋本 大津町は企業誘致に関しては進んでいる町と思うんですけど、その反面、観光はまだ改善点があると思うので、日本人だけじゃなく、アジアなどにも目を向けて欲しいと思います。